



登 武 那 霸 城 跡

指定名称 とんなはじょうあと 登武那霸城跡（町指定史跡）
所在地 久米島町字宇根宇根原3391-1
指定年月日 昭和47年9月2日（旧仲里村指定）
所有者 久米島町

トシナハ
登武那霸城跡は、久米島町役場仲里
庁舎の北方約500mのところにあるト
シナハ山（標高120m）の南側斜面の
中腹にあって、城主は伊敷索按司の三
男のがさしわかちやら笠末若茶良である。中城（宇江城
城）と具志川城の城主とは異母兄であ
る。この城は他の城が山の頂上や海に
面した断崖上に築城されているのに対
し、山の中腹の斜面に位置し、石垣も
安山岩の巨石を手ごろな大きさの安山
岩で野面積みにしてつないでいるだけ
である。

城内か
らはグス
ク系土器
片、類須恵器、青磁片等がわずかに確
認されている。

笠末若茶良のことを歌ったオモロが
数首あり、登武那霸城周辺の住民から
慕われた人望厚い城主であったことが
窺える。

